

感謝

副会長
総務部部長

関 徳治
(昭三十三年卒)



北越商業を昭和33年に卒業し、即社会に出、早50年が過ぎました。昔は人生50年と言われていましたが、今は医学の進歩と食糧が豊かになったせいか日本人の平均寿命も世界一。私も運がよかったです。健康で仕事にたせいか、又出会った多くの方々にも恵まれました。働くことが出来ましたが、来年初希を迎えますが、まだまだ若い者には負けられぬと、老体に鞭打って未だ働いています。

のだろうか。これからの健康に留意し頑張りたいと思っています。

母校の発展を

副会長
情報部部長

長北 喜雄
(昭三十四年卒)



皆様におかれましては、益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。我が母校北越高等学校は、北越商業高等学校として創立以来、一昨年で70周年を迎えました。思えば、私も昭和33年の3年生に在学中、当時学校も流石に木造校舎としてありましたが、体育の授業はそこから現在の地米山まで、田んぼの畦道を歩いてグラウンド整備の為にローラーを牽いた記憶があります。それがどうでしょう...。誠に時の経つのは早いもので、もう当時の新校舎が40年以上も経ち又老朽化したということでもあり、10年がかりで校舎建替えのための資金集めを、即ち校舎改築期成同盟会というものが発足され、同窓会も一体とな

り学校当局と連携をとりながら、今年(平成20年)3月には新教室棟が完成、続いて来年3月には体育館・視聴覚教室等が完成すること、誠に喜びに堪えません。

私も同窓会の会議やその他の緒用で何回となく新校舎に参りましたが、新築特有の香りがツーンと鼻にくる、誠に心地よい思いが致しております。来年3月が待ち遠しい思いであります。卒業生にとりまして、皆一様にお世話になった母校の発展は何よりも嬉しい限りであります。我が情報部委員会は、これからも、学校の現状や会員同志の近況等、機関誌「ほくえつ」を通して皆様にお届けしていきたいと思っております。同窓生皆様のご健勝をお祈り申し上げます。



秋艸道人

「学規」について

副会長
総務企画部部長

竹石 松次
(昭三十七年卒)



ふるさとが生んだ文化人、會津八一先生(号は秋艸道人)明治十四年(一八八一年)八月一日新潟市生まれ、中国史研究家、書家、歌人であり、新潟市の名誉市民に選ばれて

います。

永い間早稲田大学で教鞭をとり、晩年は新潟に戻り、夕刊ニイガタ(現在の新潟日報社の前身)の社長に就任しました。その會津八一先生が門下生に揮毫した書に「学規」があります。生きるための人としての心掛けを示した一文で、私が好きな銘です。

一、ふかくこの生を愛すべし
一、かえりみて己を知るべし
一、学藝を以つて性を養うべし
一、日々新面目あるべし

どんな状態でも、どんなに苦境にあっても、人として生きる指針が必要であり、その時ふと振り返る心の有様をこの「学規」で論じています。大いに学び、遊び、広い世界に視野を広げ、世の為、人の為、家族の為に一生懸命に生きることに素晴らしさをこの「学規」は教えてくれます。[會津八一記念館・新潟市中央区舟見町]



地球への報恩感謝

「八分の出来、風あり」

副会長・副幹事長
事務局長
細野 暁
(昭三十三年卒)



今年も多くの人が出で賑わった蒲原まつりでのご託宣である。農家にとって一番の関心事が今年の作柄、天候に大きく左右され不安定な生活を余儀なくされた農耕生活が始

まった弥生時代から「神頼み」がそして「感謝の祭り」が生まれた。日本列島のように温暖で多湿、水資源や樹林資源が豊富で大きな恵みを与えてくれる自然環境、その自然を大切にする気持ちから森羅万象全てのものに神を宿らせて、祈りそして感謝をして又その恵みの守護を神と誓い合ってきたのが日本の民族である。

その点他国のように草木も生えない砂漠然とした地に住み、生活することそのものが困難を極め、その上その貧しい生活をも脅かす自然の猛威、自然環境は生活の敵

であり戦いの対象であったと思われ。そんな中からは自然を愛しみ育て感謝する気持ちは生まれにくいと思う。その環境を変えることが先決であつてその環境を守れと言われたとしても彼らのDNAが理解を示さないのである。洞爺湖サミットも終わり地球環境を守らうと議論されたが、私たちに在学中に培った「報恩感謝」の精神があります。「人に感謝、自然に感謝、そして全てのものに感謝」する気持ちを何時でも忘れずに持ち続けたいと思う。

青春の思い出...

学校アルバム

Kuwano

株式会社 桑野写真館

〒950-0087 新潟市中央区東大通り2丁目3番14号
TEL(代)025-241-1440 夜間 025-244-0019



あなたの Portrait. 貴重な歴史

プロがとらえる
たしかな写真